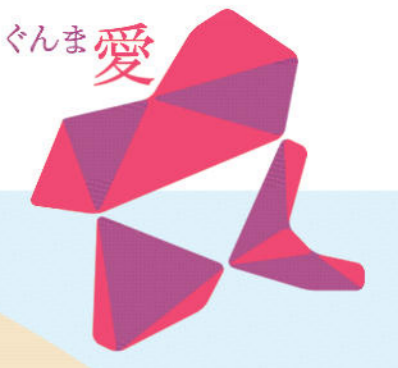




寄り添う・たかさき

SOS

困っている人はすぐ助ける



高齢者ごみ出し ～週一度 自宅訪問～



中村ぜんさん(90)はサービス開始当初から利用している。「雨の日もまとめて玄関先におけば収集しに来てくれるので、とても助かっている」と感謝する。

2年前に夫を亡くし、現在は一人暮らしをしている。近くに長男夫婦が住んでいるため、日常生活にあまり不安はないが、10年ほど前から右膝が悪く、歩行には手押し車が欠かせない。

「危険物は重いので大変だった」と、ごみ出しが負担になっていた。燃やせるごみも量が多い時は手押し車を使いつつ一度で運びきれず、自宅とごみステーションを往復することもあった。

それでも、ステーションが自宅近くにあることから、初めは利用をためらったが、地元区長の勧めで利用を決めた。「運動も兼ねて週に1回くらいなら平気だろうと考えていたが、転んで寝たきりになってしまったという高齢者の話も聞く。無理してしがらみをしてしまったら、家族に心配をかけてしまう。サービスを利用して良かった」



収集員との会話を楽しみながらサービスを利用する中村さん(右)

見守り役も

収集時には、収集員が声掛けをするなど高齢者世帯の見守りの役割も担っている。中村さんは「毎回、「元気でですか」と声を掛けてくれるので、今では世間話をするのが毎週の楽しみ」と笑う。

高齢者ごみ出しSOSサービスは指定のごみステーションへのごみ出しが困難な人々を支援しようと、2020年から始まった。週に1度、決められた曜日に収集員が自宅を訪れ、無料でごみを収集している。防犯対策として、専用の帽子や衣服、身分証を着用して業務に当たっている。

対象は70歳以上のみの高齢者世帯だけでなく、乳幼児の子育てで指定時間までのごみ出しが難しいといった声もあり、妊産婦や3歳未満の乳幼児がいてごみ出しが困難と認められた世帯、障害がある人のみの世帯も利用できる。

収集するごみの種類は燃やせるごみ、燃やせないごみ、資源物、危険物となっている。

●連絡先
TEL.027-321-1253(一般廃棄物対策課)

ヤングケアラー ～チームで最適支援～



病気や障害のある家族の介護やきょうだいの世話をする18歳未満の子ども「ヤングケアラー」。家庭の事情により日常的に大きな負担を強いられ、学業や友人関係などへの影響が懸念されている。

市は、市立中学・高校の校長に行った聞き取り調査で各校1～2人のヤングケアラーの可能性のある子どもがいることを把握したという。ヤングケアラーSOSサービスは、日常生活で困っている子どもたちに救いの手を差し伸べようと、今年9月からサポーター派遣を全国に先駆けて本格的にスタートさせた。

相談があった子ども1人ごとに、子どもとその家族を支援する機関の担当者によるワーキングチームを設置し、それぞれの状況に合わせた支援を検討。有識者で構成するヤングケアラー支援推進委員会で審議し、支援内容を決定している。

チームの一員でサポーター派遣の調整などを担うケアサブライシステムズ(長野県)の中嶋友紀さん(47)は「事情によって支援の仕方や内容も変わってくる。子ども本人や家庭が抱えている問題を丁寧に聞き取りながら、子どもたちを支えるサービスを提供したい」と話す。



利用者宅で洗濯物を洗むサポーター

「自分の時間楽しんで」

病気を患う親で代わり家事などをする子どもへの支援では、サポーターが掃除や洗濯のほか、日用品の買い入れ、食事の用意などを行っている。支援に携わったサポーターの黒沢千慮さん(49)は「初めのうちは手伝いに入っても、自分でやろうとしていたが、次第に任せられるようになり、今ではテレビを見てつづるく姿を見せてくれるようになった」と子どもの変化を語る。「私たちが訪問していく間だけでも自分の時間を楽しんでほしい。相談していくこともあるかもしれないが、頼れる大人がいることを知ってほしい」。黒沢さんはこう呼び掛ける。

対象は、市内在住の中学生と高校生(要望があれば小学生も対象)。生活の援助や家族の介護、幼いきょうだいの世話などの支援をするサポーターを無料で派遣する。利用は1日2時間、週2日まで。

●連絡先
TEL.027-321-1170(学校教育課ヤングケアラー支援担当)

サービス事業

かゆいところに手が届くような社会福祉、子育て支援施策を推進する高崎市。それを象徴する「SOSサービス事業」は介護を皮切りに、子育て、高齢者ごみ出しと続き、今年9月からは新たにヤングケアラーに広がった。

「困っている人に温かい手」。人口約37万人の県内最大都市はハード面の充実だけでなく、ソフト面でも先進的な取り組みを展開する。

「SOSサービス事業内容」

- 介護
- 子育て
- ヤングケアラー
- 高齢者ごみ出し

子育て ～掃除 調理で負担軽減～



5歳の長女と1歳の長男を育てる入智奈美さん(33)は、3年ほど前からサービスを利用している。週2回ほど、家の掃除や洗濯物の整理などを依頼する。

長男がまだ幼く、共働きのため、家事に手が回らないことが多く、やりたくてもできないことがストレスだという。

「子どもを風呂に入れて出てきたら、部屋がきれいになっているので気分も明るくなる。子どもたちもヘルパーさんについていて、来るのを楽しみにしている」とサービスに助けられている。長男を妊娠中にも利用。「つわりで体調が悪い時は、本当に助かった」と振り返る。子どもが幼いうちは、人と接する機会も減る。「話し相手にもなってくれるので、ストレス発散になった」

「気持ちに余裕」

共働きで4歳の長女を育てる大倉千幸さん(46)は、週末に2時間利用する。部屋の掃除や食事の下ごしらえなどを依頼することが多い。

「ヘルパーさんの2馬力家事を片付けられるので、気持ちに余裕が持てるようになった。家族でゆっくり過ごす時間が増えた」と話す。

サービスの利用を始めたのは、娘が1歳半を迎えたころ。1年間の育休を経て職場復帰をした時期で、夫は単身赴任で週末しか自宅に帰ってこない中、仕事と子育て、家事の両立に息詰まっていた。

最初は散らかっている家の中を他人に見せることに抵抗感があったが、「勇気を出して利用したら本当に楽になった。もっと早くから利用していたら良かった」。初めての子育てで不安も多かったが、「子どもの食事の味付けや掃除の豆知識などを教えてくれたためにも。子育て経験者も多く、頼れる存在」と感謝する。

子育てSOSサービスは、子育て中の保護者の肉体的、精神的負担を軽減しようと、2019年に開始。妊娠中や就学前児童がいる家庭が対象で、1時間250円で利用できる。



ヘルパー(右)が洗濯物を整理している際、子どもと遊ぶ利用者

●連絡先
TEL.027-384-8009(専用ダイヤル)

介護 ～24時間365日対応～



神村容子さん(65)は、日常生活で介助が必要な母の大沢喜美子さん(90)のトイレからの移動や着替えなどで月に3回ほどサービスを利用する。

喜美子さんは昨年、自宅での転倒を機にトイレや着替えなどで介助が必要になった。日頃は容子さんが自力で介助をしているが、支えきれず床に崩れ落ちてしまうことがある。「床に座り込んでしまうと、私一人ではどうにもできない」。そんなSOSの状態の時、サービスを頼る。「夜遅くても電話してから15分くらいで駆け付けてくれて本当にありがたい」と感謝する。

認知症の母親(89)を介護する沢田恵子さん(66)は、法事や葬式で家を空けなければならない日に母の見守りを依頼した。「ヘルパーさんはベテランが多く、扱い方も上手。話し相手にもなってくれて、利用後は母も「楽しかった」と満足している。安心して任せられる」と笑顔を見せた。

自身の経験から、同じく介護をしている他の人たちにもサービスの利用を呼び掛ける。「SOSは料金も安く、気兼ねなくお願いできる。困ったときに利用できると思えるだけで気持ちが楽になる。これからも頼りにしたい」

宿泊サービスも

介護SOSサービスは、高齢者の在宅介護をする家族や介護者の負担軽減につなげようと、2016年から始まった。緊急な介護が必要になった際、24時間365日、電話1本でサービス実施事業者に登録されたケアサブライシステムズ(長野県)のヘルパーが訪れる。食事や排せつ介助といった身体介護、見守りなどの生活援助をする訪問サービスと、急な外出などで介護者が介護できなくなった際に利用できる短期の宿泊サービスがある。

利用料金は訪問が1時間250円、宿泊が1泊2食付きで2,000円(送迎付きは3,000円)。宿泊は社会福祉法人新生会(中室田町)とホテルサンコー(吉井町)の2カ所を利用できる。



大沢さん(中)の移動を介助するSOSサービスのヘルパーと娘の神村さん(右)

●連絡先
TEL.027-360-5524(専用ダイヤル)



富岡 賢治 高崎市長に聞く

子育て・福祉に温かい手を

一社会福祉、子育て支援施策に力を入れ、きめ細かい事業が目につく。どういったアイデアを思い付くのか。

市町村は国と違い、目の前の困っている市民に直接、手を差し伸べている。中でも、高齢者の安心と子育て環境の向上は2大テーマだ。毎朝1時間くらい散歩をしているのを見て、その時に出会った人と話すなどして施策が思い浮かぶことがある。

一最初に介護SOSを始めた。介護度で家庭が崩壊したり、仕事に行けなかったというケースを周

圍で目にした。市の職員でも仕事を頑張っているのに、介護で離職しなければならぬ人がいた。こういう人たちにどう支援の手を差し伸べるかを考え、介護SOSができた。

一子育てSOSにもつながった。散歩中、若い母親から面影を見てくれる人が周囲になくて大変という話を聞いた。私たちの世代からすると、苦労するのが親という考え方もあるが、共働きの親には余裕がない。仕事を終えて保育所に迎えに行き、家に帰ると疲労困憊(こんぱい)で何もする気になれないという。イライラすると、子どもにも良くない。そこで成功した介護SOSを応用し、電話1本で子育てのベテランが駆け付けられる仕組みにした。依頼が多いのは1番が部屋の掃除で、2番目が料理。手が回らない状況が見られる。

一子育て環境の向上が市の発展にもたらす効果は大きい。一般的に企業誘致の主な施策は税制優遇などに取り組む自治体が多いが、高崎市の決め手は手が届きやすいこと。子育て環境の充実だ。中心市街地と子育て世代が増加している旧群馬町地域に設けた託児所は好評を得ている。理由を聞かずには預けられるので、デパートやコンサートなどに行っても構わない。リフレッシュしたり、視野を広げる時間も必要。いずれも利用者が多いので、3カ所目を検討している。散歩していたら、子育て環境の良さを評価して東京から移住してきたという母親に話しかけられ、感謝を伝えられたこともある。うれし「限り」。

一今後の施策の方向性は。23年4月1日から高校生も医療費を無料化する。当初予定よりも前倒しすることができた。子育てで福祉は税金を投入する優先度が高い。民間と連携して、多少効率が悪くてもやっていく必要がある。これからも困っている市民に温かい手を差し伸べ続けていきたい。

高崎市が進める主な支援施策

子育て

- 気軽に利用できる託児ルーム設置
- 子育て支援の拠点「子育てなんでもセンター」
- 18歳まで医療費を無料化(2023年4月1日から)
- こども救援センター(2025年度中に児童相談所設置へ)
- 病児・病後児保育施設設置
- 保育所(園)入所申し込み通年化
- 育休対象児童の入所が可能

高齢者

- GPSで居場所を特定「はいかい高齢者救援システム」
- 孤独死を防ぐ「あんしん見守りシステム」
- 地域で見守る「高齢者あんしんセンター」

この街といきていく

おかげさまで、創立108周年。高崎信用金庫は、創立以来変わらぬ姿勢で、この街とともに歩んでまいりました。これまでも、これからも、地域のみなさまの豊かな暮らしのお手伝いに努めてまいります。

高崎信用金庫

地域の力 応援キャンペーン ぐんま愛 協賛社

EARTH CARE	アイオー信用金庫	Aizawa	赤城自然園	あかぎ信用組合	あすかホール	糸井商事	カネコ種苗株式会社
カネコ種苗	北群馬信用金庫	共愛学園	桐生信用金庫	桐生第一高等学校	KIRIN	CLIMB	群電
グンビル	群馬銀行	一般社団法人群馬県住宅協会	群馬県信用組合	群馬ダイヤツ	群馬トヨタ	群馬トヨペット	ぐんまみらい信用組合
Yakult	ケアサブライシステムズ株式会社	佐田建設	JAグループ群馬	JESCO SUGAYA株式会社	しのめ信用金庫	上毛共済	STAR KOTSU
スナガ	群成電社	Danich Life Group	高崎松風園	高崎信用金庫	高崎ターミナルビル株式会社	天國社	TOKYO GAS NETWORK
TOWA	東和銀行	村松郡信用金庫	TOYOTA WOODYOU HOME	トヨタコロコ群馬	NF ナルセグループ	日産サティ群馬	JFC 日本政策金融公庫
日本生命	NEXUS	ネット309群馬	はるる	富士スバル	冬木工業	Primaera	星野興業
北海道電力株式会社	三電協	群馬鉄道	エレクトロ	ママト	田ようざん	らららん藤岡	連合群馬